

るつ記記念基金だより

2016年度・るつ記記念基金記念礼拝説教

一粒の麦が多くの実を結ぶ

(ヨハネ福音書12章20～26節)

えとう なおずみ
江藤直純 先生 (ルーテル学院大学・学長)



えとう なおずみ、1948年生まれ。日本ルーテル神学大学・神学校卒業、シカゴ・ルーテル神学校大学院博士課程修了、神学博士。「キリストの心を心とする」との建学精神のもと、「一人ひとりを大切にする教育から、一人ひとりを大切にする人材が育つ」との信念に立ち教育を進めておられます。

るつ記さんは大学を卒業した後、日立教会の皆さまに見送られてフィリピンへと旅立ちました。アジアの貧しい人々のところに旅立つということでした。別の言い方で端的に言えば、まだ見ぬ隣人のもとへと旅立っていきました。映画「るっちゃんの旅立ち」の最後のほうに彼女のこの言葉があります。

私が役立つならば、困っている人々のところへ、助けを必要としている人々のところへ、どこまでも出かけていきます。

まだ見ぬ隣人のところへの旅立ちです。出かけなければ、旅立ちをしなければ隣人は見えない、隣人に会えない。見ようとしなければいつまでたっても見えない。しかし、ここを旅立つことで、出かけていくことで新しく隣人に会えるのです。

ルーテル学院大学の校門を入ったところの緑の芝生の上にルターの紋章とルターの言葉が刻まれた石碑が建っています。そこにはこうあります。

自分のためにではなく、隣人のために生きて仕える生に神の祝福があるように。

(マルチン・ルター)

この祝福の言葉はるっちゃんに贈られた祝福で

す。るっちゃん的な生き方をしようとして奨学金を贈られて育ったフィリピンの多くの人たちに贈られる祝福の言葉です。そのような若者たちを支援するために心を砕き、祈りをなし、捧げものをする多くの人たち、教会の皆さまへの祝福の言葉です。

種がひとりで、30倍、60倍、100倍に実を实らせるわけではありません。地中の水と栄養、この空気中の炭酸ガスや諸々のもの、そして太陽の光が与えられて、それが土の中にまかれた一粒の麦を育てます。芽を出させ、枝が伸び、葉を広げ、そして実を实らせるようにさせます。それは種の力ではなく神さまの力であります。

その神さまを信じ、その神さまに感謝し、そうしてくださる神さまに改めて我と我が身を重ねて、今、ここから旅立って出かけていきたいと思えます。そのような生、そのような人生を、自分のためではなく、隣人のために生きて仕える生に、神の祝福があるようにと祈り、み言葉をルターを通して私たち一人ひとりが今日いただいて、旅立っていきたいと思えます。

昨年11月20日、日本基督教団日立教会・るつ記記念基金記念礼拝における説教をRFMF委員会の責任で編集し掲載させていただきました。